

WINDOW



止血訓練



搬送訓練



消火訓練の説明を受ける外国人参加者(南国市消防本部)

2009
Spring
No.50

特集 在住外国人のための南海地震対策:「防災訓練」

- 国際ふれあい広場2008
- KIA携帯サイトを開設しました!
- 学生インターンを受け入れました
- Letter from abroad
尾崎博昭(シンガポール)
- 高知県国際交流員メッセージ「サランヘヨ、高知！」
朴 炫強(韓国)
- INFORMATION BOARD
- 民間国際交流団体紹介
くろしお農業協同振興組合

国際ふれあい広場2008

今年度で4回目となる「国際ふれあい広場」は、メイン会場をひろめ市場イベント広場に移し、10月18日(土)、19日(日)の2日間で開催しました。今回も国際協力に関するさまざまな催し物や講演会、中学・高校生による弁論大会などとおして、県民の国際協力に対する理解を深め、国際ボランティア活動への参画のきっかけ作りとなるようなイベントになりました。

雨宮清さんの基調講演

カンボジアやアフガニスタンなど現在または過去の紛争地域で地雷除去の活動をしている雨宮清さん(山梨日立建機代表取締役社長)による講演会を10月18日(土)に県人権啓発センター・ホールで開催しました。CSR活動(企業の社会貢献活動)の一環として来高された雨宮さんは、前日にも高知商業高校で講演をされ、体調が万全でない中1時間半の割り当て時間をフルに使い、現地の活動報告、活動をするに至った経緯や思いについて、スライドとビデオを用いて、淡々と、しかし時折熱のこもった口調で、国際協力の重要性を訴えてくれました。

商用でカンボジアを訪れたとき、地雷により足を失った子どもたちのあまりの多さに胸を痛めたのが、対人地雷除去機の開発への原動力でした。5年ほどの開発期間を経て地雷の爆発に耐える除去機を完成させ、これまで計6カ国に58台を納入しました(当時)。地雷を除去した土地を利用可能なものとするため、除去機の後部に耕作機を取り付けるなどの改良を重ね、現地の復興支援とビジネスを両立させた国際協力の1つのモデルを提唱しました。



基調講演

中学・高校生による弁論大会(国際土佐っ子メッセージ)

基調講演のすぐ後に行われた「国際土佐っ子メッセージ」には、今年度も県内の中学生・高校生13人が参加し、日ごろ感じている世界平和や国際貢献などについて意見を発表しました。発表者全員がそれぞれの経験や思いなどを述べる堂々とした素晴らしい意見発表でしたが、次の5名の方に賞状及び副賞が贈呈されました。(学校名・学年はいずれも平成20年10月現在のものです)

中学・高校生による弁論大会に形を変えて4年目の今回、初めて中学生から大賞者が選ばれました。大賞受賞者には副賞として、協賛団体のJAL高知支店から高知=東京間往復無料航空券が贈呈されました。

大賞 賞:藤田千咲さん(加茂中学校3年)
優秀賞:豊澤杏奈さん(越知中学校3年)
佐藤翠さん(高知商業高校2年)
審査員特別賞:萩田翔君(土佐塾高校1年)
雨宮清賞:岡林亜里紗さん(高知商業高校1年)

ここでは、最も優れた発表をした藤田千咲さんの発表文全文を掲載します。

「笑顔の花を咲かせよう」

「今日未明、アフガニスタンで死者40人を超えるテロがありました。」

私のまわり、いや、世の中や世界は、このような暗く息づまるニュースであふれています。

「明るいニュースってないがやろうか。」私は憤りを感じ、今、危機

的な状態にある世界のことを考えてみました。

例えば、インドやカンボジアなどに紛争のために埋められた地雷は、まだ多く埋まったままです。そして、東南アジアやアフリカなどの国々には、低賃金で強制的に働かされている子どもたちもたくさんいます。有名ブランドのジー



加茂中学校 3年 藤田千咲さん

ンズの多くは、メキシコの小さな工場働く子どもたちの手で作られています。一日中働いても15円程にしかならないお金を生活の一部にしているというのです。

今の私たちの生活を見てみると、身の回りにはたくさんの物や食料があふれ、何不自由なく使い、そして、捨てています。毎日働きづめの子どもたちに対して、私たちの生活は裕福すぎるといえるのではないのでしょうか。

このように、私たちが住むこの地球には、問題が山積みされているのです。私たちは、いったい何から始めれば良いのでしょうか。

私たち加茂中学校では、そういった世界の現状を学ぶ中で、積極的に国際協力に取り組むことにしました。私も生徒会役員として、全校生徒や地域全体に協力を呼びかけています。

今、私たちが最も力を入れている活動は、アルミ缶、古新聞の回収です。これらを集め商店に引き取ってもらうとお金に変わります。そのお金を募金する活動です。昨年度は、5740円を「コンゴ子ども基金」に募金することができました。国際理解の学習で、コンゴで医師として医療に携わるン

ガツ・ロジャーさんとの交流がきっかけとなったのでした。

私たちのこの活動で、実際に学校に通えるようになったコンゴ民主共和国の7人の子どもたちがいます。彼らから届いた、お礼の手紙に添えられていた1人ひとりの写真を見た時、私はすごく嬉しかったです。

「私たちの活動で、遠い国の子どもたちが笑顔になれたんだ。」そう思えたからです。

私たちは、この活動を地道に続けていくつもりです。

「今日、コンゴ民主共和国に子どもたちの笑顔の花が咲きました。」

「どの国の子どもたちも、自由に遊び、豊かに学んでいます。」

そんな明るいニュースが流れ、世界中の子どもたちが、人々が笑顔になる日まで。

みなさん！！私たちと一緒に活動しませんか。

みなさんの協力こそが必要です。

幸せを分け合える世界を創ろう。そして、世界中に笑顔の花を咲かせよう。

参加者(団体)の声

参加団体として: グアテマラ生産者支援ネットワーク「みるば」

事務局長: 栗田桂子さん

初めてのひろめ市場での開催でしたが、国際協力に関心のない方も大勢通るので、その中にはきっと足を止めていただいた方もおられたでしょうし、実際に商品もたくさん売れたのでよかったです。こうした一般の方に親しみやすいイベントで、少しでも多くの方に国際交流・国際協力に関心を持っていただくのはとても大切だと思いました。



「みるば」の展示コーナー

ボランティアとして: 宍藤暁子さん

今回、国際土佐っ子メッセージのボランティアスタッフとして参加する機会に恵まれ、中学・高校生によるスピーチを聴かせていただきました。そこで、彼らの国際協力、国際貢献に対する真剣な思いを感じ、大変頼もしく思いました。思い返せば、私が国際交流活動に参加するきっかけは、小学生の時、現『郷土愛媛と国際社会を考える会』会長である松下文治先生を講師に迎えて開催された、国際交流に関する講座に参加したことでした。その中で、いろいろな国の方々に出会い、その生活習慣や気質の違いに驚き、国際交流の楽しさを学びました。彼らには、このスピーチコンテストを通して学んだことを糧に、今後世界で活躍して下さるよう期待しております。また、より多くの方が国際交流活動、国際貢献活動に積極的に参加して下さるようこのイベントが更に広く周知されることを願っております。

共催団体、協賛団体、参加団体の紹介

共催団体: JICA 四国 (独立行政法人国際協力機構 四国支部)

協賛団体: JAL 高知支店 (株式会社日本航空インターナショナル 高知支店)

参加団体: 12 団体 (順不同)

高知大学留学生を支援する会、グアテマラ生産者支援ネットワーク「みるば」、アフリカの雫、アジア僻地医療を支援する会、高知 S G G 善意通訳クラブ、日中友好協会 高知県連合会 高知支部、Brain、高知県南米移住家族会、アジア文化交流会、高知県青年海外協力隊 OB 会、JICA 四国、高知県国際交流協会



たいさくくん

外国人対象の 防災訓練を県内で 初めて実施しました



ヘルバちゃん

©やなせたかし(高知県防災キャラクター)

2008年9月28日(日)、外国人を対象とした県内では初めての開催となる南海地震などの大規模災害を想定した防災訓練を南国市消防本部(南国市篠原)で実施しました。この防災訓練の開催に当たっては、南国市・南国市国際交流協会・南国市消防本部の全面的な協力を得て、南国市や周辺市町の在住外国人約50人を含む、総勢約100名の参加者に応急手当訓練(止血法、搬送法、固定法)、起震車体験、消火訓練、防災DVD鑑賞の4つのプログラムを体験していただきました。



参加者全員を前に櫻谷常務理事あいさつ



搬送訓練を体験する外国人参加者



つなみまん

外国人といえども南海地震から免れることはできません。日本人と同様に備える必要がありますが、今回の防災訓練はいざ地震が起きた直後に外国人本人や家族、近隣住民の生命・身体を守るために必要な行動が的確かつ迅速にできるよう実践的な訓練を目標としました。同時に、当協会が19年度から養成している災害時語学サポーターの実践訓練も兼ねた内容になるように工夫しました。



じしんまん



止血訓練を体験する外国人参加者



消火訓練を体験する外国人参加者

各訓練の日本語による説明や起震車の操作は消防署の方にやっていただきましたが、外国語の通訳は災害時語学サポーターが担当しました。日本語が理解できない外国人にも訓練の内容を十分理解していただくため、訓練内容は日本語を含んだ6カ国語に翻訳して参加者全員に配りました。



消火訓練の通訳をする災害時語学サポーター(右端)



搬送訓練で通訳をする災害時語学サポーター(右から2番目)



トラフ博士

このような防災訓練は初体験ということもあって、訓練を受ける外国人は皆楽しんでいる様子でした。起震車体験では遊園地の乗り物に乗っているかのごとく笑みがこぼれたり歓声を上げることもありましたが、あまりの大きな揺れに体の自由が利かないため、机の下にもぐることができない外国人の方もいました。



最大震度「7」を体験する外国人参加者



ゆうどうくん

今回の訓練のように災害時にも皆冷静に対応できれば南海地震で被害に遭うことはないと思います。訓練終了後に集めたアンケートでは、またこのような訓練が開催される場合ぜひ参加したいという声が圧倒的に多かったので、外国人を対象とした防災訓練を21年度以降も継続できればいいと思っています。

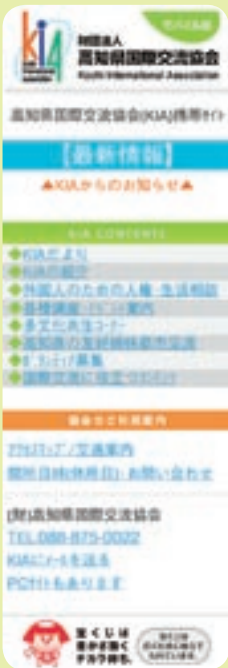


避難所を想定した聞き取り訓練:左が被災者役の中国人、右が災害時語学サポーター

【平成21年度に予定している在住外国人向け南海地震対策】

- ①災害時語学サポーター養成講座の開催
- ②在住外国人を対象とした防災訓練の実施
- ③やさしい日本語による南海地震に備えようパンフレットの作成・配布
- ④6カ国語版の応急手当マニュアルの作成・配布
- ⑤折りたたみ式災害用携帯カード(タガログ語・ベトナム語)の作成・配布

KIA携帯サイトを開設しました!



サイトのトップ画面

当協会ではこのほど携帯電話のホームページ(携帯サイト)を開設し、当協会の活動内容や県内外の国際交流情報によりアクセスしやすくしました。ぜひご利用ください。

URL: <http://mobile.kochi-kia.or.jp/>



サイトのQRコード

●ご利用方法

バーコードを携帯電話のカメラで読み取り、携帯サイトにアクセスして下さい。バーコードからアクセスできない場合はURLを直接入力してください。

●コンテンツ

- 1) 最新情報(KIAからのお知らせ、イベント・講座情報などの見出しを掲載)
- 2) KIAだより(当協会職員などが仕事や私生活上で経験した国際交流に関する感想・意見などを掲載)
- 3) KIAの紹介(プロフィール、実施事業、出版物などを紹介)
- 4) 外国人のための人権・生活相談(相談言語、相談時間などを掲載)
- 5) 各種講座・イベント案内(講座やイベント情報を詳しく掲載)
- 6) 多文化共生コーナー(当協会の多文化共生事業を詳しく掲載)
- 7) 高知県の友好姉妹都市交流(友好姉妹都市についての説明と当協会の関わりについて概説)
- 8) ボランティア募集(当協会の国際ボランティア、他団体の国際ボランティアについて掲載)
- 9) 生活に役立つコンテンツ(外国人との交流に際し必要と思われる情報を掲載)
- 10) アクセスマップ(当協会までの行き方を地図や写真を使って説明)
- 11) 開所日時(休所日)・お問い合わせ(最新の休所日、問い合わせ先を掲載)

**KIAメルマガ
もあります!**

2007年9月に開設した当協会メールマガジン(KIAメルマガ)は、おかげさまで登録者が160人を超え、県内の国際交流・協力、多文化共生に関する有効な情報受信ツールになっています。基本的に月1回(毎月1日)発行しています。メルマガに載せる情報も随時募集しています!お気軽にお問い合わせください。メルマガへのご登録は→ <http://www.kochi-kia.or.jp/mailmagazine/index.html> からどうぞ。

学生インターンを受け入れました

2008年の8月から9月にかけて、大学生の学生インターンを2名受け入れました。協会としては初の試みでしたので、どんな学生が応募してくれるだろうか、1人も応募がなかったらどうしよう、など期待と不安が交錯する中でのスタートでしたが、優秀な学生から3名も申込があり、不安のほうは一瞬にして吹き飛んでしまいました。

ここでは今年度に受け入れた澤田秀貴さんと井本敏子さんのインターンを終えてのレポートを紹介します。

「10日間のインターンシップを終えて」

高知大学 総合人間自然科学研究科 理学専攻 澤田秀貴

私は、8月中旬～下旬に合計10日間、協会初のインターンシップ生として職場体験をさせていただきました。志望動機は、国際交流、協力活動に興味がありながら、実際にはどのような活動が行われているのか、また、そこで働くということはどういうことなのか、ということ漠然としか理解していなかったため、本物の現場を体験してみたいと思ったからでした。私は理系の学生なので、本当に別分野で何もイメージできない状況でのスタートでしたので、最初はワクワクよりも不安の方が大きかったです。



実習の主な内容は、協会の様々な仕事を体験し、国際交流の現場を理解することでした。色々なセミナーやイベントの打ち合わせに同行し、JICA推進員の方からJICAの国際協力についてレクチャーもしていただきました。思い返せば10日間の日程はあっという間でした。グローバルな国際協力、ローカルな国際協力、様々な形の国際協力の在り方を理解し、非常に充実した職場体験をさせていただいた10日間でした。最終日には始めの不安はどこへ行ってしまったのか、まるで自分の居場所の様に協会の椅子に座っている私がいまいました。それは全て明るく優しく受け入れて、接してくださった協会の職員の方々のおかげだと思います。アットホームな雰囲気で楽しく職場体験させていただきました。本当にありがとうございました。

「参加者としての数年、提供者としての数日」

高知大学人文学部国際コミュニケーション学科4年 井本敏子

協会と出会ったのは高校生の頃でした。当時から国際科で外国語の学習に励み、外国の文化に強い興味を持っていた私にとって協会は情報の宝箱でした。大学に進学してからも協会が提供してくれたイベントや企画の情報は大学生活に潤いをもたらしてくれました。参加者として数年間協会と関わってきた私にとって今回のインターンシップは数日間という短い期間ではありましたが協会を違った視点から見る事が出来、とても充実した経験をする事ができました。



参加者として協会と関わっていた頃は自分が楽しんでいることが重要点となっていました。が今回インターンシップの中で同行させていただいた数々のイベントの中では企画の段階にこそ携われなかったものの、計画通りに運営、管理していくこと、そして何より参加者の方々に充実した時間を送っていただくことが重要点としてありました。イベント提供者としての評価は参加者の方々が答えてくださったアンケートが正直に教えてくれました。何が足りなかったか、どこに気をまわしていなかったかなど、次回への改善点が多く盛り込まれたアンケートはイベントを提供する側にとっては教科書のようなだと何度も感じました。今回のインターンシップは参加者として携わった数年では味わえなかった密度の濃い数日間となりました。この経験を今後とも自分の糧とし、教訓としていきたいと思っています。

澤田さん、井本さん、こちらこそありがとうございました。21年度も学生インターンを受け入れる予定ですので、意欲のある学生の方は是非チャレンジしてください！

Letter from abroad

高知県シンガポール事務所
副所長 尾崎博昭

高知県庁から高知県シンガポール事務所へ派遣されて、早いもので約2年が経ちます。シンガポールでは、高知県内の企業が東南アジア諸国で行う経済活動(貿易や投資)への支援活動を行っています。

シンガポールは1965年にマレーシアから半ば絶縁される形で独立し、日本の淡路島程度の狭い国土や乏しい資源といった厳しい条件を抱えながら、わずか数十年のうちに奇跡的とも言える経済成長を遂げました。その原動力は、国家の生き残りを賭けて、外資の誘致を国策として掲げ、そのインフラや環境整備、人材教育を推進してきた政府の強力な国家づくりによるものです。

その恩恵で、近年シンガポールは、6%~10%の国内総生産(GDP)の成長率を維持し、順調な成長を遂げてきました。2007年には、国民の1人当たりのGDPが遂に日本を追い越すとともに、不動産価格の高騰による空前の建設ラッシュ、カジノ建設などの大型プロジェクトの推進など、景気の過熱ぶりには目を見張りました。

しかし、日米やユーロ圏への輸出産業に支えられてきたシンガポールにとって、昨年アメリカを発端とする世界的金融危機で状況は一変、2008年第4・四半期のGDPの伸び率はマイナス12.5%、商業ビルではテナント募集の張り紙が目立つようになるなど、景気後退の深刻化が浮き彫りになっています。政府は、現在の景気後退局面は少なくとも2009年にかけて続き、更に長期化する可能性に備える必要があると国民に警告しています。

しかしながら、健全な国家財政と、政権与党がほぼ国会を独占する独裁政権である利点を活かし、シンガポール政府は、実に迅速に個人や企業向けの支援措置を次々と打ち出しており、その中には、今回の危機を乗り越えることで、国家を更に発展させるとの強い意志が感じられます。国家の規模や政治状況は違うものの、日本とはあまりにも好対照な状況に、日本にも奮起を期待したいところです。



サランヘヨ、高知!

高知県国際交流員 朴 炫強

05年4月に来高し、高知県国際交流員として活躍され、09年3月に帰国されます朴 炫強さんからのメッセージです。

延々と広がる綺麗な海と青い空に見守られる中、国際交流員としての新しい生活に胸をドキドキ・ワクワクしながら高知龍馬空港に着いた4年前の日を今でも忘れられません。高知県の国際交流員として着任したのがまるで昨日の日のように思われますが、もう4年という時間が経ちました。高知で過ごした日々は私の人生においても大変貴重な時間となり、私の成長にも大きく繋がったと思います。ここには私を家族のように暖かく受け入れてくださった方々との大切な思い出が語り切れないほどたくさんあって、高知を離れると思うと、とても寂しくなります。

坂本龍馬が好きで高知を希望した私ですが、今は高知の全てが好きになりました。高知の美味しい野菜や果物はもちろんのこと、かんかん照りの真夏日も酒好きの県民性も大好きです。中でも一番好きなのは、高知県の皆さんの熱い心です。恥ずかしいことですが、国際交流員になって間もない頃は「国際交流」というのは国と国同士のことだと思っていました。しかし、実際に国際交流の様々な現場でお手伝いをさせていただいているうちに、「国際交流」は人と人とのささやかな出会いから芽生えるものであって、それには何より人の心が大事であることに気がつきました。そういうところからも高知に来て本

当に良かったと思います。高知には熱い心を持ったたくさんの方々がいて、そのような方々に恵まれ、毎日が勉強になり、毎日が幸せでした。韓国では「酒好きに悪い人はいない」と言いますが、日本でもそのようですね。高知、サイコー!!!

高知に来て初めて親元を離れ、一人暮らしを始めました。この4年の間に、人の妻になり、ママにもなりました。全部高知の方々のご声援がなければ、夢見ることすら出来なかったことだと思います。今まで応援して下さった皆様に、この紙面をお借りして感謝の気持ちをお伝えしたいです。これからも高知で結ばれた皆様との掛け替えのないご縁を大事にしていきたいと思っています。昨年の年末に生まれた息子の手をつないで、日本の叔母さん・叔父さんが待ちゆう高知にまた帰ってきたいと思っています。では、行ってきます!!!



朴さん(右端)

高知県とベンゲット州

昭和50年、第5回高知県青年の船が同州を訪問した時に、当時の溝渕高知県知事とパレスビスベンゲット州知事との間で、姉妹交流協定が締結されました。この締結は当組合代表理事吉川浩史の橋渡しにより実現したものです。

以後、高知県とは技術研修員の受入や知事の相互訪問、姉妹交流推進会議の結成などの経過を経て、締結時の柱であった農民交流は平成9年、JA土佐くろしおが農業研修生の受入れを開始、第5期生まで58名を受入れてきました。

平成15年から須崎市内ハウス園芸農家を中心に設立した当組合が事業を引き継ぎ、累計181名が来日しました。現在90名がハウス園芸やショウガ、ニラ、果樹などで研修中です。

研修を終えて帰国した青年たちは、ベンゲット・日本農業研修多目的協同組合を設立し、同州の農業発展のために活躍しています。中には習得した技術を活かして、農産物の産地化に成功し、同国の農業大臣から表彰された青年もいます。

当組合での研修生の受入れは、フィリピン共和国ベンゲット州農業の経済的な発展に貢献するための人材育成、技術・技能の移転を目的としていますが、帰国研修生たちの社会的・経済的基盤は非常に弱く、多くの帰国研修生に、しっかりした農業者組織をつくり、生活の向上を目指してもらうため、物心両面の支援を行っています。

自転車とは無縁の山岳地域からの研修生もいます。今年から消火器の取扱いや避難訓練なども計画しています。



交通安全教室の様子

所在地: 〒785-0052 須崎市押岡458番地
E-mail address: nosin@sea.scatv.ne.jp
Tel: 0889-42-0104 Fax: 0889-42-5149
設立年月日 平成15年10月1日
組合の地区 高知県・愛媛県
組合員数65名(平成21年1月現在)

INFORMATION BOARD

KIA「21年度前半の実施予定事業の紹介」

(9月までの主な事業)

ジュニア国際大学(県内小学生高学年(小学4~6年生対象、6月27日実施予定。)

遊びやゲーム等を通じて世界を学習し国際理解を深める。

国際ボランティア入門講座(18歳以上の県民を対象、4月19日実施予定。)

国際ボランティアとは何か?活動のタイプから制度、条件、応募方法などを未経験者に分かりやすく説明する。

アジア語学講座(ベトナム語)(18歳以上の県民を対象、4月11日から7月25日の土曜日に開催予定。)

ベトナム語の基礎(発音・文法・旅行会話など)を学習する。初心者を対象。

*申込方法等詳細については、事業開始日1ヶ月前くらいから当協会HP等でお知らせする予定です。

災害時語学サポーター養成講座(18歳以上の県民を対象、6月6日と7日に開催予定。)

大規模災害に備えて外国人を言葉の面で支援するボランティアを養成。

日本語ボランティア講師養成講座(初級コース、スキルアップコース9月実施予定。)

初心者を対象としたコースは、高知会場(5月9日、16日、23日、30日)と、幡多会場(6月6日、13日、20日、7月4日)で開催。

異文化理解講座(18歳以上の県民を対象、6月と11月頃、実施予定。)

在住外国人による母国の社会情勢・文化等を日本語でわかりやすく紹介する。

広告

